カードにプレゼント、そしてロマンティックなディナ-

英国式バレンタインデーって いったいどんなもの?

日本では、女性から男性へ、愛の告白とともにチョコレートを贈る日としてすっかり定着している バレンタインデー。では、イギリス人たちは、いったいどんなバレンタインデーを過ごすのでしょう? イギリス人たちへのリサーチをもとに、「英国式バレンタイン」のあれこれ、集めてみました。

Text: Mami McGuinness



日本では、バレンタインデーといえば、 女性が男性に愛を告白する日、それと同 時にチョコレートを贈る日、として一般に 認知され、その習慣が浸透していますが、 イギリスのバレンタイ

> ンデーは様子が少 し違います。も ちろんイギ リスにおい てもこの日 は、「愛を 伝える日」 ではありま すが、男女 どちらから告

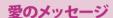
白してもよく、その際には、必ずカードを 贈るというのが伝統です。そしてそのカー ドには、決して自分の名前を書いてはいけ ません。あくまでも、自分の思いだけを 綴って、名前は伏せておくのです。そして、 カードを受け取った相手は、送り主は誰だ ろう…と、どきどきしながら送り主の顔を 思い浮かべるのです。

ところで、イギリスで最初に贈られたバ レンタインのカードは、1415年、アジャン クールの戦いにより捕虜としてロンドン塔 に幽閉されていた、フランス人のチャール ズ (デューク・オブ・オリオン) が妻に宛 てて贈った手書きの詩だと言われていま

その後、16世紀頃までには、バレンタ インデーにカードを贈ることが上流階級の 間に広まり、18世紀の終わり頃には、キ ューピッドとハートで彩られたカードが 販売されるようにもなっていきました。

さて、時は現代に移り…イギリスでは、 片思いの人だけでなく、すでにカップル の人たちも、カードを送り合います。そ れが結婚して長い年月の経ったカップル であっても、です。特に、もしあ なたのパートナーがイギリス人 であるなら、それがどんな に長年連れ添った相手であ っても、バレンタインデー には必ずカードを贈りま しょう。そうでないと「も う愛していないのね」と、 トラブルにだってなりかね ませんよ!?





be my

valentine

では、どんな言葉をカードに書いたらいいの? と思うかたもいら っしゃるかもしれませんね。 もちろん、愛の告白にマニュアルはありませんから、大切なのは、 あなたの気持ちを正直に書くことです が、イギリス人の中には、ロマンティックな詩の一節を写して書い たりする人もいます。

また、たいていの市販のカードには、中にメッセージが印刷され ているので、「英語で愛の告白なんて、ちょっと自信がない…」とい

う人は、そういったカードを利用するのも

よいでしょう。

ちなみに、多くの人が使うフレーズは 「Be my Valentine」。また「My Heart belongs to you」といったメッセージ も、受け取った相手はよろこんでくれる に違いありません。

SWALK

イギリス人が教え てくれたユニーク な慣習のひとつ がこの SWALK。 恋に目覚め始 めたティーン エイジャーたち が、バレンタインにカ ードを贈るとき、封筒の裏 にこんな文字を記したりするこ ともあるのだそう。この意味はといえば、S=Sealed W=with A=A L=Loving K=Kiss。あなたの「思い 人」がユーモアのセンスのある人なら、 カードの裏にこのメッセージを書いて みるのもいいかもしれません。







カップルで過ごす バレンタインデー

恋人や夫婦、すでにカップルとなっている人たちは、バレンタインデーには素敵なレストランでスペシャルディナーを楽しむ、というのがイギリス流。バレンタインデーにレストランに出かけたら、予約がいっぱいで入れなかった、とか、周りがカップルばかりで驚いた、といった経験をした方もいらっしゃるのではないでしょうか。

そう、イギリスのカップルにとっては、ちょっとオシャレをして、素敵なレストランで食事をし、ロマンティックなムードに浸る、というのがバレンタインのお約束、とも言えるのです。そのため、多くのレストランではバレンタインのスペシャルメニューを準備しています。また、お店によっては、女性客に赤いバラの花をプレゼントしてくれる、というサービスを提供しているところもあります。



さて、バレンタインデーに、人気のレストランでのディナーを考えているのなら、なるべく早めに予約をした方がよさそう。片思いの相手ではなく、すでにカップルになっている場合、必ずしもそれが男性の義務というわけではありませんが、やはり、ディナーをオーガナイズするのは男性がほとんど。これは、決してイギリスに限ったことではなさそうですけれどね。

英国式バレンタインのプレゼント

カードを贈り合うだけではなく、バレンタインにプレゼントを贈るというのはイギリスでも一般的。でも、プレゼントの内容は、日本のようにチョコレート一色、というのではなく、花、ケーキ、香水など、さまざまです。もちろん、プレゼントは女性から男性へ、とは限らず、

もちろん、プレゼントは女性から男性へ、とは限らず、 多くの男性が女性にプレゼントを贈りますし、カップル はお互いにプレゼントを交換しあったりします。

男性から女性へのバレンタインのギフトの中で、最も 伝統的でポピュラーなもののひとつと言えば、やはり赤 いバラでしょう。 1本だけでも十分ですが、より深い愛 の表現をしたい…というならA dozen roses (1ダースの バラの花束) というのも、女性にはよろこばれること間 違いなし。

バレンタインデーに花を贈る習慣ができたのは、17世紀頃のことと言われていますが、中でも赤いバラが、愛の告白のメッセンジャーとして選ばれるのは、愛を司る神、ヴィーナスのお気に入りの花が赤いバラだということ、また、赤い色は強い愛情を示すことから、相手への深い愛の象徴ととらえられているためです。

イギリスでは、バレンタインの時期には、花屋さんはもちろん、スーパーで売られているものさえ、普段の2倍以上の値段がつけられることもある赤いバラ。でも、「真実の愛」を示すのにそのくらいの出費は当たり前、と思う人も多いのか、一説によると、イギリスではバレンタインデーに700万本もの赤いバラが贈られているとのことです。



バレンタインデーのはじまりは…

バレンタインの起源については諸説ありますが、現在最も有力な説として考えられているのが、ローマ時代の'ルペルカリア祭'と、キリスト教司祭であったセント・バレンタインが処刑された日という、2月14日にまつわる2つの出来事をあわせたものです。

ルペルカリア祭というのは、豊饒の神ユノに捧げるもので、祭りの前日、2月14日になると、若い未婚女性たちは自分の名前の書かれた紙を入れ物に入れ、翌日、未婚男性がその中から1枚を選び、その名前の相手と祭りの間パートナーとして過ごしたのだそう。そして、多くのパートナーたちは、そのまま結婚をした、と言い伝えられています。

また、セント・バレンタインについての逸話は以 下のようなものです。 ローマ皇帝クラウディウス2世は、愛する人が故郷にいると、兵士たちが戦争に出たがらないことから、ローマでの兵士の婚姻を禁止してしまいました。しかし、それを見かねたキリスト教司祭バレンチノは、皇帝に隠れて、兵士たちを婚姻させていたのです。結局それが皇帝の知るところとなり、バレンチノは西暦 270 年 (269 年との説もあり) 2月 14 日に処刑されました。

この2月14日は、ちょうどルペルカリア祭の前日(未婚女性たちが自分の名前を入れ物に入れる日)にあたることから、セント・バレンタインの処刑は、ルペルカリア祭への生け贄とも解釈され、以後、この日はキリスト教徒にとっても祭日とされ、恋人たちの日と位置づけられるようになりました。

